

野生生物保護学会第11回大会

プログラム

会期：2005年11月18日（金）～20日（日）

会場：金沢工業大学扇が丘キャンパス

後援：石川県

●大会実行委員長 敷田麻実

金沢工業大学 情報フロンティア学部 情報マネジメント学科

〒924-0838 石川県白山市八東穂（やつかほ）3-1

事務室電話：076-274-7733 直通：076-274-7164

E-mail：shikida@neptune.kanazawa-it.ac.jp

●大会事務局 小金澤正昭

宇都宮大学 農学部附属演習林

〒329-2441 栃木県塩谷郡塩谷町船生 7556

電話 0287-47-0057（代表） ファックス 0287-47-0366

E-mail：info@wcsjpn.org

野生生物保護学会第11回大会 日程表

期日	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
11月18日(金)	5-110							R1					
	5-109							R2					
	5-108							理事会					
	5-107							ポスター発表					
	5-106							休憩室					
11月19日(土)	5-110	R3					R5			総会			
	5-109	R4					R6						
	5-108	口頭発表				R7		R8		懇親会			
	5-107	ポスター発表		*1	ポスター発表								
	5-106	休憩室											
11月20日(日)	5-110	R9											
	5-108	口頭発表											
	5-107	ポスター発表			回収時間								
	5-106	休憩室											
	5-101							公開 シンポジウム					

*1: 責任時間 11時30分～12時30分

懇親会会場 23号館1階「セレス」

大会に参加される方へのご案内

発表者へ

自由集会

自由集会は、発表の準備を含め責任者にすべておまかせします。会場では担当の学生が待機していますので、発表用のファイルは会場担当の学生に渡してください。また、自分のパソコンを使用する場合は、会場担当の学生と相談してください。

口頭発表

口頭発表は11月19日、20日に5号館108 講義室で行います。

発表時間は質疑応答を含めて20分とします。活発な議論のために15分以内に発表を終えて下さい。発表にはOHP、プロジェクター(パワーポイントなどを映写利用)を利用できます(スライド映写機は利用できませんので、ご注意ください)。また、OHPとプロジェクターを同時に使用することも可能です。

会場には既設のプロジェクターがあります。それに連動してウインドウズXPおよびオフィス(パワーポイント)2003のインストールされたパソコンを各会場に用意します。研究発表は、自分の発表セッションの30分前までに USBメモリー、CD-Rの形でファイルを大会受付に渡して下さい。動画を使用するなど特別な事由の場合は、ご自分のパソコンを持ってきて下さい。プロジェクターを利用される方で、ご自分のコンピュータを接続される方は、講演者の責任においてあらかじめ動作を確認して下さい。

なお会場と同じ設定の試写室も別に用意いたします。

ポスター発表

ポスターは11月18日午後2時から20日正午までに、5号館107講義室に展示して下さい。発表者はプログラムに指定された場所にポスターを貼ってください。展示ポスターは縦180cm、横90cmです。最上部に表題と氏名・所属を明記して下さい。ポスター展示に必要な画鋲等は事務局で用意します。ポスターの回収は20日正午から午後3時の間に行ってください。回収されなかったポスターは事務局で廃棄しますので、必要な方は必ず時間内に回収して下さい。

『野生生物保護の可能性と未来』

～野生生物とのかかわりのための協働～

野生生物は孤立した存在ではなく、常に地域社会とのかかわりの中でその生態を維持してきました。また人が生態系にかかわることで維持されてきた里山のような生態系もあります。

しかし、社会の変化、人のかかわりの変化で、この微妙なバランスが崩れています。今回のシンポジウムでは、地域生態系、中でも野生生物の保護や保全について、研究者、行政担当者、地域住民がさまざまな角度から意見交換し、ともに考える場を提供します。

日 時：平成17年11月20日(日)13時～16時30分

場 所：金沢工業大学5号館101講義室

参加費：無料 定員：200人(申し込み不要)
主催：野生生物保護学会
講演：石川県

プログラム (開場 12時30分)

■開会あいさつ

野生生物保護学会会長

■13:00 基調講演

鬼頭秀一(東京大学新領域創成科学研究科 教授)

■14:10 休憩、コーヒーブレイクで懇談

■14:30 パネルディスカッション

パネリスト

中村元風(片野鴨池板網猟保存会 会長)

加賀市片野鴨池の伝統的狩猟とその維持(ガンカモ類)

池田啓(兵庫県コウノトリの郷公園 研究部長)

自然再生への地域の取組(コウノトリ)

中村浩二(金沢大学理学部教授)

石川県の里山問題：能登半島にトキは復活するか

羽山伸一(日本獣医畜産大学 助教授)

分布拡大し続ける外来生物(アライグマなど)

野崎英吉(石川県自然保護課 課長補佐)

里山で増える野生大型獣(クマ、サル、イノシシ)

コーディネータ 敷田麻実(野生生物保護学会 会長、金沢工業大学 教授)

■15:30 総合討論

■16:30 閉会予定

自由集会

11月18日(金)

- R1 **日本人狩猟者を絶滅から救えるか？－21世紀の狩猟学－** 5号館110講義室
責任者：神崎伸夫(東京農工大学) 14時～17時
上田剛平(兵庫県農林水産部)
- R2 **フクロウ研究集会** 5号館109講義室
責任者：金田聡子(東京農工大学大学院) 14時～17時

11月19日(土)

- R3 **行政と研究はどう協働するか？～野生生物保護行政懇話会(仮称)～** 5号館110講義室
責任者：奥山正樹(環境省北海道地方環境事務所) 9時～12時
丸山哲也(栃木県民の森管理事務所)
- R4 **自然再生フォーラム：なぜ種の再導入は必要か？** 5号館109講義室
責任者：江成広斗・西川真理(自然再生研究会・東京農工大学大学院) 9時～12時
角田裕志(自然再生研究会)
- R5 **オオカミ協会主催：日本のオオカミ絶滅百年シンポジウム** 5号館110講義室
「オオカミの復活にむけて」 13時～17時
責任者：小金澤正昭(宇都宮大学)
丸山直樹(東京農工大学)
- R6 **ツキノワグマとの共存を考える** 5号館109講義室
責任者：古林賢恒(東京農工大学) 13時～17時
- R7 **渥美半島大山一帯(渥美山塊)の鳥類・ほ乳類と** 5号館108講義室
自衛隊ヘリコプター低空訓練を考える 13時～15時
責任者：大羽康利(渥美空と海と人のみちしるべ保存会&渥美自然の会)
草刈秀紀(WWFジャパン自然保護室)
- R8 **サハリン島の野生生物の危機～石油・天然ガス開発の裏側～** 5号館108講義室
責任者：村上正子(国際環境NGO FoE Japan) 15時～17時
草刈秀紀(WWFジャパン)

11月20日(日)

- R9 **野生生物保護学会の方向性：学会の対象分野の多様化と学会運営の将来** 5号館110講義室
責任者：敷田麻実(金沢工業大学) 9時～12時
-

- 座長 林 哲
- O-1 9:00-9:20 石狩川上流域におけるシロザケの回帰一テレメリー調査をととして一
有賀誠・津田裕一・三原孝二・佐藤直・藤岡紘・河邊玲・光永靖・宮下和土
- O-2 9:20-9:40 家畜放牧がモンゴルの草原性齧歯類に及ぼす影響
須田知樹・高槻成紀・Sukhchuluun Gansukh・Badamjavın Lhagvasuren
吉原佑・佐藤雅俊
- O-3 9:40-10:00 南アルプス北岳周辺における育雛期の雌ニホンライチョウの食性ならびに抱雛行動
大村顕介・蓬田和生・肴倉孝明・古林賢恒
- O-4 10:00-10:20 丹沢山地山麓帯上部の河畔林におけるムササビ(*Petaurista leucogenys*)の食性
谷さやか・古林賢恒・時田昇臣
- 座長 古林 賢恒
- O-5 10:20-10:40 冷温帯のミズナラ林・カラマツ人工林・スギ人工林を行動圏とするムササビの食性の季節性
遠藤智恵子・時田昇臣・北原正宣・肴倉孝明・古林賢恒
- O-6 10:40-11:00 東京都奥多摩における食肉類の糞から出現した種子と特徴
小池伸介・森本英人・後藤優介・小坂井千夏・山崎晃司・古林賢恒
- O-7 11:00-11:20 針葉樹の樹液を構成する糖成分
時田昇臣・市川雅子・貝沼慶子・門岡航・岡田充弘・古林賢恒
- O-8 11:20-11:40 石川県におけるツキノワグマの捕獲個体の年令と栄養状態(2004)
林哲・黒崎敏文・鈴木隆史

- 座長 和田 一雄
- O-9 9:00-9:20 ラムサール条約登録湿地片野鴨池の植物相と植生の変遷
稲葉弘之
- O-10 9:20-9:40 金沢大学角間キャンパス内の「新角間川ピオトープ」の生物相、特に創設以来4年間の遷移
長島志津子・中村浩二
- O-11 9:40-10:00 「一部の寄生虫学者の独り言」では済ませない 一寄生生物保全ネットワークの試み
横畑泰志・浦部美佐子
- O-12 10:00-10:20 富山県魚津市「洞杉」の利用と保全に関するアンケート調査
倉又恵理香・横畑泰志・NPO法人片貝川の清流を守る会
- O-13 10:20-10:40 自然保護アンケート調査の結果に対する調査方法の影響 一富山県魚津市「洞杉」保全の事例から
横畑泰志・倉又恵理香・NPO法人片貝川の清流を守る会
- 座長 横畑 泰志
- O-14 10:40-11:00 絶滅危惧種ヤマシジミの保全に関する基礎的研究 3. メタ個体群の構造について
渡辺通人
- O-15 11:00-11:20 爬虫両生類における外来種問題に関する意識調査と、その方法論的課題
佐藤忍・松本忠夫
- O-16 11:20-11:40 登山者カウンターを用いた白山国立公園の登山者動態分析
横内伸泰・敷田麻実
- O-17 11:40-12:00 中国内蒙古自治区における自然保護区管理に対する評価
娜日蘇
- O-18 12:00-12:20 ニホンザル保全学の史的区分
和田一雄

展示時間：11月18日14時～17時、19日9時～17時、20日9時～12時。

責任時間：11月19日11時30分～12時30分、回収時間：20日12時～15時。

- P-1 強度間伐による複層林化で鳥類相、コウモリ相は豊かになるか？
佐野明
- P-2 アライグマ侵入地域における住民意識調査
池田透・立澤史郎
- P-3 群馬県下仁田町・妙義町における獣害防止ネットの効果について
坂口裕佳・安富舞・羽山伸一
- P-4 野生ニホンザル被害対策における接近警報装置の効果について
安富舞・下田秀明・羽山伸一
- P-5 島根県におけるニホンザルの生息・被害実態と被害回避試験
金森弘樹・澤田誠吾・長妻武宏・石田興三
- P-6 飼育イノシシを使った被害防除試験について
長妻武宏・金森弘樹・藤原悟
- P-7 ニホンツキノワグマの食物環境と出没被害の関係
吉田洋・林進・北原正彦・濱口あかり・六波羅聡
- P-8 ツキノワグマ出没常習地における被害対策としての電気柵の有効性
丸山哲也
- P-9 栃木県におけるツキノワグマ奥地放獣の課題検討～行政機関に対する認識調査～
大森住夫・丸山哲也
- P-10 天気とトキの餌場選択について
飯村武
- P-11 ニホンヤマネの巣箱嗜好性を利用した調査法案
中村夢奈
- P-12 北海道帯広市のモモンガ用道路横断構造物の利用状況
浅利裕伸・柳川久
- P-13 巣箱利用からみたニホンモモンガ *Pteromys momonga* の分布傾向
大久保慶信・安藤元一・鈴木圭・角田彩
- P-14 繁殖期におけるホンドレンコウモリの行動圏と利用環境
向山満・鶴間亮一・麻田昌克・鬼久保浩正・加藤利奈
- P-15 南アルプスにおけるウサギコウモリの行動様式と生息地利用パターン
吉倉智子・三宅隆・村田浩一
- P-16 中型哺乳類による側溝の利用
後藤真美子・安藤元一・近藤美都・阿部純・太田真琴
- P-17 静岡県富士宮市におけるテン (*Martes melampus*) の季節的食性変化
南波興之・後藤和郎・岩佐真宏・村田浩一
- P-18 静岡県富士宮市におけるテン (*Martes melampus*) の行動圏と環境利用に関する解析
後藤和郎・南波興之・村田浩一
- P-19 亜高山帯に生息するニホンカモシカの冬期の食物量と糞中窒素含有率 -下北半島・朝日山地との比較-
山田雄作・落合啓二・村田浩一
- P-20 狩猟期におけるリュウキュウイノシシ (*Sus scrofa riukiuanus*) の齢別繁殖状況
蛭原一平
- P-21 御坂山地南東部におけるニホンザルの群れの広がり
畠井良幸・吉田洋・丸山直樹・渡辺通人・江成広斗
-